

14人が  
質問しました。

# 9月定例会

市政 Q&A

■ 一括質問  
■ 一問一答

1	東 浩一 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●土砂災害対応について</li> <li>●コロナ禍の対応について</li> <li>●松東こども園開設について</li> <li>●日本遺産サミットin小松について</li> </ul>	6 ページ	2	橋本 米子 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●症状に応じ必要な医療を全ての患者に提供するために</li> <li>●新学期に向けた小・中学校・高等学校の感染対策について</li> <li>●学校給食調理等の民間委託化について</li> <li>●「生理の貧困」対策について</li> </ul>	6 ページ
3	吉田 寛治 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入札制度・SDGs・正蓮寺産業団地</li> </ul>	7 ページ	4	梅田 利和 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生の進路確保と就職支援</li> <li>●農業用施設防災対策費</li> </ul>	7 ページ
5	竹田 良平 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般不妊治療助成(人工授精などが対象)について</li> <li>●運転免許を自主返納された方への支援について</li> <li>●ヤングケアラーについて</li> </ul>	8 ページ	6	吉本 慎太郎 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小松市で「コロナ自宅療養」があってはならない</li> </ul>	8 ページ
7	岡山 晃宏 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2050ゼロカーボンシティ宣言について</li> <li>●学校におけるコロナ対応について</li> </ul>	9 ページ	8	円地 仁志 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商店街のアーケードについて</li> </ul>	9 ページ
9	吉村 範明 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●香害・化学物質過敏症への取組について</li> <li>●更なる安心・安全なまちづくりに向けて</li> </ul>	10 ページ	10	木下 裕介 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもたちへのコロナ対策</li> <li>●通学路の安全点検について</li> <li>●ゼロカーボンシティ宣言</li> <li>●若者の投票率向上のために</li> </ul>	10 ページ
11	新田 寛之 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゼロカーボンシティの実現に向けてごみ減量化とリサイクル率向上の目標と推移について</li> <li>●末広緑地公園進入口交差点の改修について</li> </ul>	11 ページ	12	片山 瞬次郎 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マイナンバーカードの利用について</li> <li>●地域の高齢者の買い物等の足の確保について</li> <li>●街路樹の管理計画は</li> </ul>	11 ページ
13	宮西 健吉 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本市の2050年までのゼロカーボンシティ宣言について</li> <li>●公衆街路灯補助金制度について</li> </ul>	12 ページ	14	川崎 順次 議員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般職の任期付職員の採用等に関する条例について</li> <li>●入札制度の大改革</li> <li>●動物の命をどう守るか</li> </ul>	12 ページ



東 浩一(ひがしこういち)議員

一括質問

土砂災害対応・コロナ禍の対応・松東  
こども園開設・日本遺産サミット in 小松

◆土砂災害対応について

Q 土砂災害対策に係る本市の現状と取組について。

A 本市の警戒区域は256か所で小松市のホームページ上に土砂災害マップを掲載している。砂防ダムは20の渓流で実施済み。現在、5の渓流で事業実施中。

◆コロナ禍の対応について

Q 8月の大雨時での、初の土砂災害リスクに対する自主避難所開設数、避難所の感染症対策や住民への周知について。

A 国府小、中海小、松東みどり学園、南部公民館の4か所に自主避難所を開設。症状によるエリア分けなども徹底した。防災行政無線やLINEで防災、結ネットや、キキワルのサイトによる避難所混雑状況等の情報配信も行っている。

Q コロナ禍の本市における自宅療養者の状況や、救急搬送体制や病院受け入れ状況について。

A 本市の自宅療養者数は公表されていない。感染者が増加の際は、都道府県の入院医療体制により重症者を優先とする体制へ移行し、軽症の方は自宅療養や宿泊施設で療養することとなる。

Q 学校・こども園でのパルスオキシメーター(酸素濃度測定機器)の配備について。

A 希望するこども園にはご寄附いただいたパルスオキシメーターを配布している。小中学校は、避難所となるので全校に配備済。

◆松東こども園開設について

Q 松東こども園への入園案内や、松東みどり学園との連携について。

A 申込みは10月からで、広報10月号で詳細を告知。松東みどり学園とはALTと英語体験、生徒による絵本の読み聞かせなど、交流と連携を図っていく。

◆日本遺産サミット in 小松について

Q 11月13日14日の日本遺産サミット in 小松の規模や内容について。

A 全国104の日本遺産認定団体が小松に集い、日本遺産ストーリーの紹介や、「ものづくり」をテーマにした分科会など、相互交流を行う予定である。また、案内看板、解説看板などサインを整備し、環境整備と受入れ環境の充実を進めている。



橋本 米子(はしもとよねこ)議員

一括質問

新型コロナウイルスから  
命を守るための対策について

◆症状に応じ必要な医療を全ての患者に提供するために

Q 7・8月の感染者数と現在の治療者数、県内自宅療養者数。

A 感染者数は7月47人、8月108人。9月5日での治療者数23人、自宅療養者数207人。

Q 市医師会とも連携し、自宅療養者の実態把握が必要だ。

A 療養者の実態は県を通じ把握、保健所や市医師会の後方支援等の依頼にも対応していく。



必要な医療が全ての患者に提供される様

◆新学期に向けた小・中学校・高等学校の感染対策について

Q 空気感染防止のため短時間で全換気の徹底と必要な児童に不織布マスクの支給を。

A 自動換気システムと自然換気を併用している。不織布マスクは学校に設置しており、台湾から寄贈されるマスクについても学校で活用していく。

Q 長引くコロナ禍の中で児童・生徒の心のケアにも取組を。

A スクールカウンセラー等を派遣する支援体制を整えている。

◆学校給食調理等の民間委託化について

Q 直営時と民間委託化で、どの部分で経費縮減になったのか。

A 全学校が直営の平成26年度人件費と、令和2年度の直営13校の人件費及び20校の委託先合計と比較で、1,556万円の削減。

Q 転籍された調理員は何名か。

A 会計年度任用職員、パートを含め13名。

◆「生理の貧困」対策について

Q 小中高校の学校トイレや保健室に生理用品の設置を求める。

A 必要に応じ、保健室に設置の生理用品を配付。防災備蓄品の入替え時に各学校に配布している。児童・生徒に設置場所の周知が必要と思う。

A 配置場所を検討し、対応方法など学校に周知していく。



吉田 寛治(よしだ かんじ)議員

一括質問

## 入札制度・SDGs・正蓮寺産業団地

**Q** 金沢市や富山県の職員が関わる入札の談合のニュースがありました。宮橋市政では、公平公正な入札制度に力を入れていて聞いていますが、具体的な取組はどのようになっていますか。

**A** 入札業務での職員倫理規程や対応要領を策定し、不当な働きかけに対しては毅然とした対応を取るよう、徹底している。本市は電子入札を採用しており、市のHPに入札に関する情報を細かく掲載している。個々の入札についても予定価格の事前公表など、過程の透明性を高めることに取り組んでいる。今回更に制度改革を進めるべく取り組んでおり、公平公正な入札に向け積極的に進めていく。

**Q** 本市はSDGsの未来都市として認定されています。日本のSDGs都市をめざすのであれば、欧米では当たり前であり、亀岡市ではすでに取り組んでいるレジ袋禁止について、本市でも断固とした姿勢で取り組んでほしいと考えますがいかがでしょうか。

**A** 条例の法的な拘束力によりマイバッグ運動の成果を高めていくのではなく、事業所や市民の皆様と取り組んできたマイバッグ運動を継続発展させ、レジ袋の削減に努め、循環型社会の構築に向け積極的に取り組んでいく。

**Q** 本市において、図書館づくりは単に図書館という建物を作るだけにとどまらず、本市をこれからの新しいまちに作り変えていく作業でも考えています。必要と思われる本市の都市計画の見直しについてはどのように考えますか。また、正蓮寺にある工業団地の企業誘致に対する取り組みについてどのように行われていますか。

**A** 企業誘致・企業立地は重要な問題であり、県と連携し取り組んでいる。コロナ禍であり対面の営業は難しいが、交渉履歴のリスト化など取組の準備を進めている。

正蓮寺産業団地の企業誘致の状況は、立地準備中の製造業1社ほか、検討中の事業者6社の計7社と交渉中である。今後も誘致に向け粘り強く取り組んでいく。



梅田 利和(うめだ としかず)議員

一括質問

## 公立小松大学の取組

### ◆学生の進路確保と就職支援

**Q** 来春、初めての卒業生を送り出す重要な年になるが、内定状況は。

**A** 8月末で、生産システム科学科、看護学科、国際文化交流学科の就職希望者の内、内定は9割。臨床工学科は採用選考ピークが9月からのため、これからである。

**Q** 進路希望に沿うために、地元をはじめとする企業への働きかけや協力体制の構築は。

**A** 北陸3県等の企業、機関等と連携体制を構築しており、体制を生かし、企業の担当者と直接話をする中で学生も刺激を受け、就職のイメージを膨らませている。また、学外技術体験実習など学生の受け入れによるカリキュラムが進められている。

**Q** 本市公立小松大学法人評価委員会から令和2年度の評価についての市長の所感。

**A** 評価(大学の取組が順調に進んでいる)をいただき、大変喜ばしい。来春は初の卒業生を社会に送り出す年で、大学の真価が問われる重要な時期である。地域から

愛され、評価される大学として、できる限りのサポートを行っていく。

### ◆農業用施設防災対策費

**Q** 東部地区においての遠隔監視システムの整備目的について。

**A** 軽海用水路は都市排水も兼ねており、浸水被害の一因となっている。白江排水機場、小松東部排水機場と放水路を整備し、被害の甚大化を防いでいる。今回は、現在の気候の激甚化に対応するため、遠隔監視による施設管理の迅速化・高度化の検討を目的としている。

**Q** 遠隔監視システムが整備されていない状況において、災害が懸念されるような降雨時ではどのように対応しているか。

**A** 現状では、大雨時における放水路の操作や用水路の水位変動、排水機場の異常の有無など市職員が現地に向い、確認している。

**Q** 今回、何か所を想定し、調査を実施するのか。

**A** 一元的な管理が求められる小松東部地区の2排水機場とその関係施設6か所の計8か所である。



竹田 良平(たけだりょうへい)議員

一括質問

## 一般不妊治療助成(人工授精などが対象)について 他2点

**Q** 助成金額は1年間 最大5万円で、夫婦の前年所得の合計額が730万円未満という所得制限が設けられている。能美市などでは所得制限が撤廃されており、小松市でも撤廃してはどうか。

**A** 不妊治療を希望している人が、少しでも多く治療を受け妊娠につながるために所得制限撤廃も一つの有効な手段と判断している。現在、国では一般不妊治療の一部を保険適用とするなどの不妊治療の支援策を検討しており、国の動向も把握しながら助成制度を見直していきたい。

**Q** ◆運転免許を自主返納された方への支援について  
現在、バス回数券/タクシー乗車券は5千円分の助成が行われている。現行の支援は使い切ったら終わり、継続的な支援ではない。免許を返納したいが返納すると生活が成り立たないという苦悩がある事から、継続的な支援を実施してはどうか。

**A** 免許返納者は、令和2年度394人・令和3年度175人(8月末現在)となっている。返納後も安心して移動できる環境づくりは重要であり、免許返納2年目以降もバスやタクシーなど公共交通機関を利用できる継続的な支援を令和4年度の運用開始を目標に検討を進めていく。

**Q** ◆ヤングケアラー(本来、大人が担うと想定されているような介護や家事などの家族の世話を日常的に行っている18歳未満の子供たち)について  
本市の実態は把握しているか。国や県との連携もふまえ、今後どのような支援を検討していくか。

**A** 実態調査はしていないが、今後くらし安心ネットワーク協議会で協議を行い検討していきたい。国は2022~24年度までをヤングケアラー認知度向上の集中取組期間としている。本市では、重層的な支援体制整備事業により必要な支援が届くよう対応を検討していく。



吉本 慎太郎(よしもと しんろう)議員

一括質問

## 小松市で「コロナ自宅療養」があつてはならない

**Q** ◆この夏、猛威をふるった新型コロナウイルス感染症「第5波」。その象徴がコロナ自宅療養者の大幅な増加である。石川県内においても一番多い時間で400名近くまでに達した

**Q** 宿泊療養施設入所と自宅療養者に関する情報を取得し、それらの方々にケアと支援を施すべきではないか。保健所や医師会と連携しながら支援体制を構築していく、今がその時期である。

**A** 新型コロナウイルス感染症に関する体制整備や調整を担う位置づけになっており、療養者の情報を一元的に管理し療養時の急変に備え、入院及び搬送体制の調整を行っている。市内における自宅療養者の情報について、網羅的、一元的に情報提供していただく状況にはなっていない。

**Q** ◆この夏、猛威をふるった新型コロナウイルス感染症「第5波」。その象徴がコロナ自宅療養者の大幅な増加である。石川県内においても一番多い時間で400名近くまでに達した

**A** 次のいでいる。また、その年齢層も徐々に若年化している。感染症法上、やはり原則は入院もしくは宿泊療養施設の入所が望ましい。本市内における宿泊療養施設の確保を要望する。市長には是非とも県との折衝をしていただきたい。

**A** 自宅療養者に関するケアは非常に大事な問題だと捉えているが、全ての皆さんを宿泊療養所または入院をさせれば良いかと言えはそうではないと思う。軽症者の方々が病床を占めると医療の逼迫、崩壊につながるかねない。県において医師等が自宅療養と判断した方については、まずは一義的に自宅療養してもらい、経過観察をしっかりしていく。市としては、自宅療養者の方々の病状が悪化した等、緊急要請があった場合の対応を常に備えておくことが重要だと思ふ。県内、本市の状況について医療資源をどのように使っていくかが一番の重要な点と捉え、県との協議の中で取り組んでいきたい。

**Q** ◆現在、全国的に自宅療養中に亡くなる痛ましいケースが相

次いでいる。また、その年齢層も徐々に若年化している。感染症法上、やはり原則は入院もしくは宿泊療養施設の入所が望ましい。本市内における宿泊療養施設の確保を要望する。市長には是非とも県との折衝をしていただきたい。